



新たなステップへ！

withコロナ時代の地域学校協働活動!!

八代市では、昨年度から、市内すべての小・中・特別支援学校での地域学校協働活動がスタートしました。コロナ禍の中ではありますが、「学校を核とした地域づくり」のため、幅広い地域住民の皆さまの参画を得て、「地域の子供は地域で守り育てる」機運を高めていくことを目指し、様々な取組を行っていただいております。

まだまだコロナ禍の終息は見通せない状況が続いているますが、今年度は、感染対策をしつつ、各学校においてwithコロナの教育活動が行われ、それに伴って、地域学校協働活動が少しずつ実施可能になってきました。新たなステップアップを目指して、引き続き「できることを」、「できるときに」、「できる範囲で」実践していきたいと考えております。よろしくお願ひします。

◎地域学校協働活動とは地域と学校がパートナーとなり、地域全体（学校を含む）で子供たちの成長を支え、地域を元氣にする活動です！

その活動は地域によって様々です。あいさつ運動、登下校の見守り、読み聞かせ、環境整備(花壇や図書室の整備など)などのボランティア活動や地域の資源を生かしたふるさと学習や職場体験、地域へ参画する清掃や福祉施設への訪問、地域行事への参加など地域の特色を生かした活動です。

地域で学校を元気に



学校で地域を元気に



地域の人づくりをみんなで！

《活動の様子》



《二見小 防災講座》



《宮地小 田植え》



《二中 職場体験》



《松高小 町探検》



《泉小 七夕作り》



《文政小 ジャガイモ掘り》



《代陽小 家庭科補助》



《昭和小 空手教室》

皆さまの地域に地域と学校をつなげる橋渡し役の「地域コーディネーター」がいます！

地域コーディネーターの呼びかけにご協力ください！！

令和4年度第1回八代市地域学校協働本部会議及び連絡調整会議を開催しました。

6月24日（金）午前10時から、八代市公民館において副本部長（教育部総括次長）をはじめとする八代市教育委員会関係者及び本部員（八代校長会代表2名・統括コーディネーター3名・地域コーディネーター22名）が参加し、第1回八代市地域学校協働本部会議を開催しました。地域コーディネーターへの委嘱状交付後に議事に入り、八代市地域学校協働活動（推進体制や地域コーディネーターの役割・活動の流れ等）や本年度の強化事業等についての説明を行いました。閉会後には引き続き連絡調整会議を行い、ボランティア人材バンクの活用や地域の人づくり講座（事例発表会）概要説明そしてグループごとに情報交換を行いました。

新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、今年で3年目となりました。当初は、学校の教育活動が自粛となり、地域学校協働活動もほとんどできないという状況でした。しかし、今年度は、各学校においてwithコロナの教育活動が行なわれ、地域コーディネーターの皆様の出番が多くなってきているのではないかでしょうか。協働本部としても、学校と地域との連携を推進する応援隊として、今年1年間、新任の地域コーディネーター3名をはじめ、地域コーディネーターの皆様の活動の後押しをしていきたいと思います。



○充実した支援活動にするために・・・

「身に付けさせたい力」を学校と地域で共有することで、活動が子供たちにとって、体験にとどまらず、ねらいに沿った教育活動に近付きます。その例を紹介します！

学習支援打合せ簿	
* 「身に付けさせたい力」欄あり	
支援日	令和4年7月1日
支援時間	3校時
支援対象	〇〇中学校2年1組
支援場所	家庭科室
支援内容	技術・家庭 ミシンの安全な使い方補助・・・
身に付けさせたい力	〇ミシンで、製作計画に沿って、アプリケをつくることができる。
支援にあたって	〇自力でなるべくさせる。 〇製作計画を確認しながら支援する。
支援者	5人

①支援内容について打ち合わせる
〇ミシンでアプリケをつくる補助。
②身に付けさせたい力について打ち合わせる
〇ミシンで、製作計画に沿って、アプリケを作ることができる。
(知識・技能、思考力・判断力・表現力)
③「支援にあたって」について打ち合わせる
〇習熟に応じて、適切に支援する。教えすぎない。

地域コーディネーターまたは学校から支援内容に加えて「身に付けさせたい力」「支援にあたって」のポイントをボランティアに伝える。



いい手の動きね。その調子！

生徒自身がボランティアに学びながら、工夫して安全に自分で製作計画に沿って作品を創り上げる。



◇学校訪問、大変お世話になりました！！

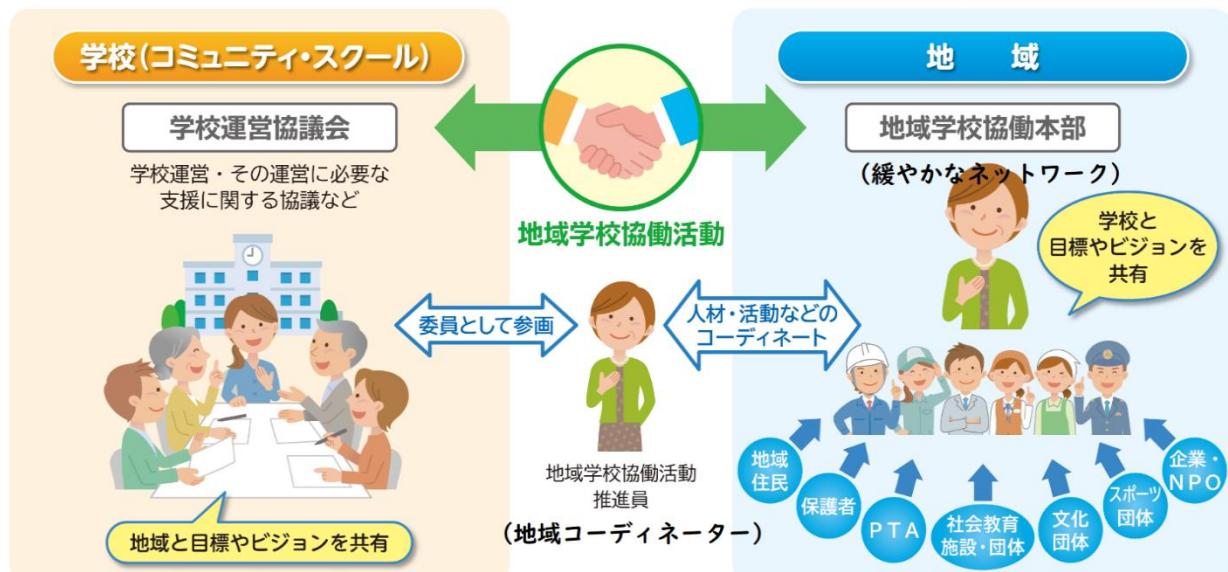
地域学校協働活動とコミュニティ・スクールに関する意見交換のため、すべての学校を訪問させていただきました。お忙しい中、管理職の先生方に対応していただき、有意義な意見交換ができました。大変お世話になりました。

今回の訪問で、「この事業は機能しつつあるのか？」「地域コーディネーターが入って良かったと思っていたらいいのか？」「協働本部にどんな支援を期待しているのか？」等質問させていただき、コロナ禍で思うように活動できていない現状、各学校が積み重ねてきた歴史やその地域性の違いにより、それぞれ独自の課題もあることがわかりました。また、それらの課題解決の糸口として、各学校において地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが効果的に連携できるように、じっくりと時間をかけて支援していく必要があると感じました。

今後も、八代市地域学校協働本部としては学校と協議しながら、各学校の地域学校協働活動が充実するように精一杯サポートしていきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いします。



コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として



地域学校協働活動とコミュニティ・スクールは、それぞれが持つ役割を十分に機能させることで両輪としての相乗効果を發揮し、学校づくりや地域づくりを充実や活性化に結び付けることが期待されます。

定義

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置している学校のこと

定義

地域学校協働活動とは、地域と学校が目標を共有して行う「連携・協働」型の活動のこと

◇地域学校協働活動における意見交換会を開催しました！

各小・中・特別支援学校に呼びかけ、8月22日(月)午前10時から、八代市公民館において意見交換会を開催しました。八代市地域学校協働活動の概要について事務局から説明を行い、その後「自校の取組紹介、地域学校協働活動のメリットや課題、教職員の働き方改革への活用方法」をテーマにグループごとの意見交換を行いました。



どのグループも活発に話し合いが進み、アンケートでは前向きな意見や情報共有できることに感謝の言葉をたくさんいただきました。ありがとうございました。参加者から出された意見や感想を一部紹介します。

- ・様々な取組を知ることができてよかったです。地域学校協働活動を利用していくうえでのメソッドがこんなにあるとは知らなかった。全職員がより知ることができるよう啓発したいと思った。知らないからアイデアが出ないというのがあると思った。
- ・他校での活用法などを知り、大変参考になった。協働活動をスムーズに進めるための第一歩は、まず、年度当初に計画を作ることではないのかなと感じた。あと、この活動が続いているためには、いかに手続きなどを簡単にしていくのかも重要だと感じた。
- ・地域学校協働活動という正直漠然としていた活動について、全体的な概念や具体的な実践などが知れてとても参考になりました。今後、コミュニティ・スクールとも関連して有効な教育活動にできるように進めていくことが課題になってくると感じています。

地域人材の活用！不登校支援「子供の言葉に耳を傾けてくれる大人の存在」

地域学校協働活動は、学校のニーズに地域の人材をマッチさせる取組です。

不登校・別室登校対応は、学校のニーズでも高い位置にあります。

そこで、八代市地域学校協働本部では令和2年度から地域人材を活用して不登校問題に対して支援していくことを強化事業として位置付け、取組を模索してきました。

不登校の子供や親が不安を感じているとき、自分の言葉に耳を傾けてくれる人がいるだけで、心が安定したり、前向きな気持ちになれたりするものです。そこで、次の2点を本事業でのコンセプトとしました。



- (1)子供にとって「話を聞いてくれる大人を増やす」ことで外への安心感を得られる。
- (2)親や先生でない大人から褒められたり認められたりする機会をつくり、心の安定を図る。

令和3年度の取組は次の通りです。別室登校の児童生徒への支援に地域人材を活用された学校は、三つの小学校と六つの中学校となっています。



(1)地域未来塾の活用（別室登校者への学習支援も含む）

- ・校区に住む退職教員が支援【中学校3校】

(2)地域人材を活用した居場所づくり

- ・地域の退職教員の活用【中学校2校】
- ・主任児童委員の活用【小学校2校、中学校1校】
- ・地域における居場所作り：学校とは違う場所で中高生と一緒に勉強したり遊んだりすることで、心の安定を図る取組【小学校1校】（宮島財団の1室を利用）

(3)不登校に関する理解者を増やす

- ・地域コーディネーター、教職員、主任児童委員、婦人会等を対象とした「不登校児童生徒への対応に関する講座」の開催

令和4年度は地域人材の活用を拡充するとともに、不登校の児童生徒の保護者を支える地域人材の育成や、理解者を増やしていきたいと考えています。



令和4年度熊本県地域の人づくり講座(第1回)[八代教室]を開催しました！

10月18日(火)午後14時30分から、八代市公民館において、地域コーディネーター、教職員、社会教育委員、地域学校協働活動に関心のある八代市民等に参加いただき、「地域学校協働活動事例発表会～学校を核とした地域づくりのために～」と題して熊本県地域の人づくり講座（第1回）を開催しました。

今回の講座では、地域学校協働活動の先進地域である天草市教育委員会の向博俊統括コーディネーターの講演、その後、本市の地域学校協働活動における事例を3名の地域コーディネーターに発表していただきました。

講演

天草市は令和2年度には市内すべての小中学校に地域コーディネーターを配置され、本年度は県のモデル地域に指定されています。講演では生涯学習課職員2名、地域コーディネーター2名も加わり、豊富な資料と工夫された発表、チームワークの良さにこの事業への熱い思いを感じました。持続可能性を高める組織の仕組みや動画等を活用した情報発信、そして各学校の地域性を生かした活動事例はとても参考になりました。



事例発表 1

蒲生正人氏：代陽小学校担当
・3つの成果
①児童の社会性の向上
②児童の自己肯定感の向上
③支援者の「やりがい」「自己有用感」「学校に対する理解」の高まり
・成果を生むための留意点
・交流を通じて居場所づくりをめざす放課後学習会の取組



事例発表 2

今田史昭氏：松高小学校・八代支援学校担当
・各学校との打ち合わせや支援の協力要請の対応
・各学年、各学部及びその他の特色ある活動事例
・地域学校協働活動に関するやりがい、成果と課題
・地域コーディネーター通信の発行



事例発表 3

松岡昭広氏：鏡中学校担当
・鏡中の地域未来塾の目標（別室登校生徒の学習支援や居場所づくり）
・実施状況（学習支援員2名でそれぞれ週1回2時間程度活動）
・関わった生徒の事例を通して、安心して学習できる居場所の必要性や支援者としての「やりがい」



《参加者のアンケートより》

- ・天草の協働活動の事例を聞いて、地域の方と関わりながら、子どもたちのコミュニケーション能力や自己肯定感を高められること、地域の方々と一緒に学校を盛りたてていくすばらしい取組を知ることができた。
- ・天草市、八代市が自治体全体で活動の推進を図っておられることがよくわかりました。心強かったです。
- ・教育行政の支援・サービス・浸透等がなければ、働き方改革が叫ばれている昨今において、教師の負担感への不安がなかなかぬぐい去れない状況もあると感じています。
- ・多岐にわたり、多くの示唆をえていただきました。コロナも落ち着きつつあるので、少しずつ活動を推進し、子どもたち、地域のために頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

活動紹介《様々な学校協力活動》

withコロナでスタートした本年度も第7波の襲来でなかなか軌道に乗れない中、それでも各学校、関係者の努力とアイデアで今できることを実践していただいている。今回は10月24日(月)に地域コーディネーターを中心に企画された文政小学校の「ワクワクキャリアセミナー」の様子を紹介します。



開会式で各講師が自己紹介

8つのブース(職業別)に分かれて説明を聞き、たくさんの質問が飛び交いました！

「地域学校協働活動」のよさはわかっているが…

余裕がなく、地域コーディネーターとの打ち合わせの時間が十分にとれない。⇒担当だけでなくチーム機能を生かして！

地域連携担当教員の負担が大きく、担当以外との温度差を感じる。⇒全職員での研修・共通理解の場を！

目標よりも活動ありきになってしまう場合がある。⇒年度初め、目標・ビジョンの共有！
・地域でどんな子供を育てたいのか？
・どんな資質・能力を育てたいのか？



本事業が地域住民に十分浸透していないため、地域人材が集まらない。⇒活動の予定や人材の募集、活動成果を地域へ発信！

学校の思いや子どもたちの思い、ニーズが伝わってこない。⇒目標、年間活動計画の共有、互いを知る場や環境の整備！

他にもこんな声が（協働本部で努力します！）
・他校での活用方法をもっと知りたい
・申請や報告の事務作業が面倒
・予算をもっと自由に使えたら・・

まずはここから！

これまで、学校訪問や意見交換会等で成果とともにいろいろな課題も聞かせていただきました。協働本部としても、「地域学校協働活動」の充実のためにさらに努力していくたいと思います。

下の表は学校と地域との「連携・協働活動状況の確認」チェックシートです。それぞれの学校においても、まずは状況を確認し、できるところから少しずつ次のアクションにつなげていただければ有難いです。また、学校訪問でお話ししたように、地域コーディネーターの動きやすい環境づくりも重ねてお願いします。

『学校と地域との連携・協働状況の確認』チェックシート	×	△	○	◎
①地域と学校がともにビジョンやめざす子ども像を共有する熟議等を行っている。				
②地域連携・協働活動に関する年間計画が作成されている。				
③教員の連携活動のニーズを地域連携教員が把握している。				
④教職員が地域連携や協働活動の意義を共有する場がある。（研修や職員会議等）				
⑤地域コーディネーターとの話し合いや情報共有がなされている。				
⑥ボランティアルームの設置や教職員への周知など、ボランティアの活動環境が整っている。				
⑦活動が子どもたちにとって、体験にとどまらず、ねらいに沿った教育活動になっている。				
⑧ボランティア募集や子供たちの教育活動、ボランティア活動の状況などが地域に情報発信している。				
⑨活動継続のために、振り返りや情報の蓄積を行うなどチーム体制作りが行われている。				
⑩活動の記録を取りまとめ、次年度の年間計画の見直しに生かしている。				



令和4年度熊本県「地域の人づくり講座」(八代教室) 第2回を開催しました！

1月20日(金)午前10時から、八代市公民館において、地域コーディネーター、PTA、婦人会、生涯学習課職員、地域学校協働活動に関心のある八代市民等に参加いただき、「あなたの力が、やつしろの子供・地域を育てます！～やつしろの絆でつむぐ地域学校協働活動！～」と題して熊本県地域の人づくり講座（第2回）を開催しました。

今回の講座は、熊本日日新聞社、読者・新聞学習センターのNIE専門委員の今村浩氏より「新聞記事に学ぶ情報発信スキルアップ講座～学ぼう！！私の活動を伝えるコツ～」と題して、①伝わりやすい文章の書き方、②情報発信の方法についてご講話をいただきました。

特に「実際の広報誌」を手直しして、ビフォー＆アフター方式で伝わりやすくするための工夫点を例示していただき、とても参考になりました。



□手直したポイント

- ・全ての記事に見出しを
- ・写真にはなるべく説明文（キャプション）も
- ・記事プラス図解があれば理解を助ける
- ・編集後記で「顔の見える活動だより」に
- ・コーディネーターの顔写真はコンパクトに



《参加者のアンケートより》

- ・ちょっとした工夫で伝わり方が劇的に変わることを実感した。広報活動に生かしていきたい。
- ・ビフォー＆アフターのアフターを参考に作成すると、同じ内容でも伝わり方が違うと感じた。
- ・新聞各紙の発信のスタンスの違いが興味深かった。事実をどう切り取るかで、真実の見え方も違ってくると思った。
- ・新聞を作るのに気を使い、読み手のことは考えていなかったと、今思ってます。良い勉強をさせてもらいました。楽しかったです。

活動紹介 《様々な学校協力活動》

～子どもたちから元気もらえた！～

1月24日(火)、25日(水)の2日間、八代支援学校で昔遊びの授業がありました。2つのグループに分かれ、地域の皆さんの指導のもと、まり遊びやこま回し、羽根つきや竹とんぼ等を体験しました。児童たちは、それぞれ好きな遊びを選んで、楽しそうに活動していました。



《あやとり》



《まり遊び》



《竹とんぼ》



《こま回し》

・・・もっと充実するために・・・地域学校協働活動参考例！

コロナ禍でいろいろな制限のある中で、少しずつではありますが、地域学校協働活動の輪が広がりつつあるように思います。そこで、次年度に向けて、地域の豊かな教育力や地域の参加意識に期待し、これまでの協働活動の実績や今後学校が望む活動等を予測して、実施可能な活動を考えてみました。

しかし、地域学校協働活動に「これが正解」「これをやらなければ」というものはありません。各学校の教育目標に照らし合わせ、その学校にとって、必要な独自の取組を模索します。

まずは、学校が取り組んでいる地域学校協働活動について、その取組を学習目的や時期、地域の人材、その方の連絡先などを一覧表にまとめ、実態を把握されて見てはどうでしょうか。

①学校周辺環境整備

- ◆通学路整備等
- ◆危険個所の点検



②学校支援活動

- ◆学習支援、学習の遅れがちな子へのサポート(授業中、放課後)
- ◆不登校・外国人児童生徒等多様な教育的配慮が必要な子どもたちへの対応
- ◆地域人材による特技を生かした授業支援

運動、楽器、絵画、野菜栽培、理科実験、家庭科等の実習、クラブ活動指導等

防災教育(現・元消防士) 安全教育(元警察官、交番職員)

情報教育(SNSに詳しい方によるIT関連指導、スマホゲームとの関わり方)

食育、健康教育(医療従事者、施設職員等)、中学校のキャリア教育

- ◆読み聞かせ、図書室整理・掲示、蔵書整備

◆部活動支援

体育協会に所属する競技団体による部活動指導の協力

文化的部活動の発表の場づくり



◆校内環境整備

清掃活動、溝さらい、草刈り、花壇整備、特別教室廊下掲示等

◆学校行事サポート

校外、地域学習支援(活動内容、引率) 運動会のダンス演技指導、走り方教室、開催準備

◆子どもの安全確保、扈休み・登下校の見守り

◆スクールサポート、テスト・ドリルの点検、掲示、印刷他

◆子どものためのマスクつくり、消毒作業、清掃ボランティア



③地域学習

- ◆郷土学習、歴史体験、地域探検等
- ◆地域の自然環境、フィールドワーク

◆企業訪問、商店街での職場体験、キャリア教育支援

④地域行事への参加

- ◆地域・学校協働防災訓練
- ◆地域の伝統行事への参画等



⑤子どものボランティア活動

◆地域の高齢者施設でのボランティア学習

◆地域のイベント、公共施設等でのボランティア活動

〈表紙〉

編集後記（事務局より）

LINEでつながる！
地域コーディネーターからの情報発信



八代市地域学校協働活動本部

八代市地域学校協働本部では、地域コーディネーターの皆さん情報ツールとしてLINEを活用しています。メンバー同士の情報交換や相談とともに、みんなで励まし合ったり、みんなで喜んだりして、横のつながりを大事にしながら、また、ときには本部から情報発信をしたりして、メンバー全員で八代市の地域学校協働活動を盛り上げています。

今回、令和4年4月から12月までに地域コーディネーターさんが発信された活動をまとめた冊子を作りました。すでに各学校にはこの冊子を配布させてもらっています。今後の取り組みの参考にしていただくと幸甚です。